



## 「神は今も働いておられる」

～この日本でどうしたら神の国の力を体験できるのか？～

「**神の国**はことばにはなく、**力**にあるのです。」第一コリント4章20節[新改訳]  
「よく聞いておくがよい。**神の国が力**をもって来るのを見るまでは、決して死を味わわない者が、ここに立っている者の中にいる」マルコ福音書9章1節

私たちの関心事は、聖書の世界が私たち自身の人生、生活にどのようにダイナミックに働くかということではないでしょうか。聖書はこの世で最も古い書物の一つですが、単なる歴史書ではありませんし、物語でもありません。現代に生きる私たち自身に直接的に関わるとても重要なカギでもあります。

しかし、そのカギをどのように使うことができるか？ということがとても重要です。そのカギを私たちの信仰を用いて使うことができます。信仰の大きさが問題ではなく、信じるか信じないか、ONかOFFかという世界です。しかも、信じ続けること、信じて待ち続けることが重要です。

神の国(=神の支配=神の主権)は、ことば(=ロゴス=法則=考え=知的理解による表現)によってではなく、力(=デュナミス[ダイナマイトの語源]=奇蹟=ダイナミックな現れ=現実世界への大きな影響を与える力)によって現わされると聖書は教えています。また、その力そのものでもともと。聖書は神の国(=神の支配=神の主権)について書かれています。神様は具体的にこの世の中にその力を現わされてきました。旧約時代では、主に預言者の奇跡のわざを通して、新約時代では、イエス様の数々の奇跡、また、使徒たちの働きを通して。現代ではどうでしょうか？福音派のほとんどの教団では、その聖書の語っている数々の力ある働きはもうすでに2000年前に終了しており、現代ではそのような奇跡はなされないと決めつけて落ち着いてしまっていて、福音、聖書の教えを、ただ知的、社会的、また心理学的に用いることしかしていません。それは、自分たちのグループが変にカルト的になってしまうことを恐れているからです。もちろん、力が暴走すると、いつのまにか、聖なる力強い働きが人間の欲と罪によって支配されてしまうことで、大きく間違った方向に行く危険性もなくはありません。しかし、私たちが与えられたタラントを地の中に隠して、祈り、求めることをしなくなったら、とたんに神の国からの恵みの流れがストップしてしまいます。

現代世界の中で神様の力強い働きがなされている世界の地域は、ほとんどが第三世界の貧しい、迫害や戦いの多い国々においてです。近代化し、裕福になってしまった国々では、そのような神の国の力強い働きはほとんどなされていません。それは、人々が安定した生活ができるようになって神を求める渇いた心を持ってなくなっているからです。この日本も同様です。迫害はありませんが、別の大きな課題があるのです。私たちの信仰が試されます。